

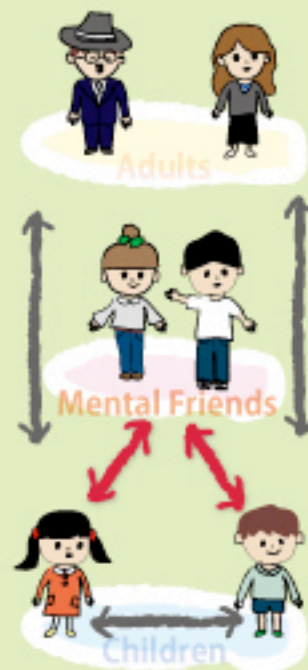
「タテ」でも「ヨコ」でもない

「ナナメ」の関係も

メンタルフレンド 大学生と築こう

人を信じて心を開き、人と人が心でつながり合う。病院、学校、福祉施設などで周囲の人たちや社会とのつながりを求めている子どもたちに、年齢が近い大学生がメンタルフレンドとして寄り添い、心で語りかけます。

本学はこれからも、小児病棟、子育て支援センター、小中学校、児童福祉施設などで「新潟の福祉」を創っていきます。



「メンタルフレンド活動」とは

新潟青陵大学のメンタルフレンド活動は、ひきこもりや不登校児等、特定の子どもたちへの支援にとどまらず、遊びや話し相手など様々なふれあいを通して、広く地域の「子ども存在」そのものに働きかけて行こうとするものです。

メンタルフレンドは教師や専門スタッフ(大人)の補完や代替とは異なる独自の立場から子どもたちの良き理解者となり、成長のお手伝いをしていきます。

取組の目標・ニーズ

大学教育と現場との隔たりを埋める実践的な学生教育

本取組の対象領域の一つである新潟県小中学校の不登校数は2,179名、教育委員会によるいじめ認知件数は1,459件(平成18年度新潟県教育委員会および文部科学省調べ)に上り、深刻な教育課題となっています。

“地域の医療福祉状況”に責任を持ち、現場実践を具体的に理解した“使える戦力”の早期養成が地方大学へ求められ、そのような人材へのニーズは高まっています。

本取組は現場専門家等との連携により、大学教育と現場との隔たりを埋める実践的で有効な学生教育を目標としています。養成する人材像は一言で言えば“地域に精通した実践家”です。

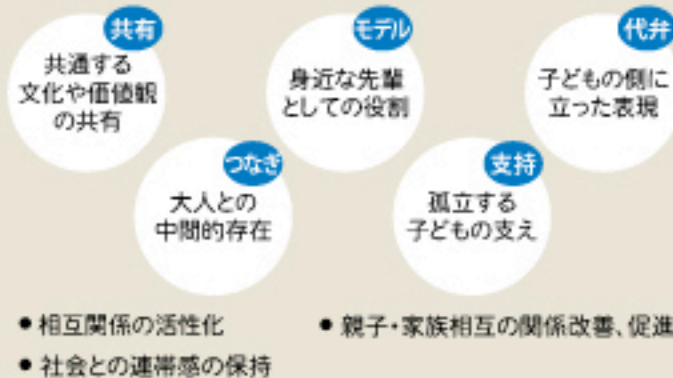
本学では児童相談所を皮切りに、平成13年度より不登校児を始めとした地域の子どもたちを対象としてメンタルフレンド活動に取り組んできました。平成19年度現在、連携機関19、登録学生数110名。本学のメンタルフレンド活動は、着実にその幅を広げてきています。

◀「大学生が子どもをサポート」
(読売新聞紙2007.12.8 朝刊)

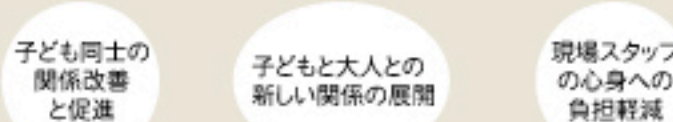
期待される効果・成果 ~それは“希望の回復”~

子どもと家族に対して...

大学生の存在が子供にとって



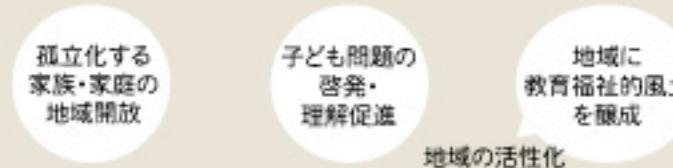
子ども集団と支援スタッフに対して...



地域の学校・公的機関・諸団体に対して...



地域社会に対して...



メンタルフレンド学生と大学に対して...

- 現場実践の体験と確認
- 「理論」「実践」を統合的に理解
- 社会参加・職業意識の醸成
- 福祉・心理・看護が連携した教育の体得
- 就職に関連する情報収集と間接的職場開拓

今後の取組み

- ① 活動地域及び機関の広域化
- ② 対象者の拡大(20代引きこもり、特別支援教育、看護現場等)
- ③ 活動内容の多様化(放課後子どもプラン、子どもの居場所作り等)
- ④ 活動組織の強化拡大(サテライト型NPO組織による関係機関ネットワーク化)

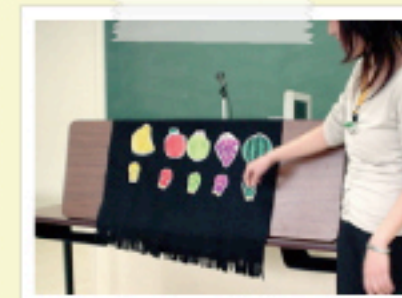
メンタルフレンドの活動内容

メンタルフレンドは小中学校(含む特別支援教育)の日常的教育場面や放課後子どもプラン、児童館、児童福祉施設、病院(長期入院児童)などで次のような活動を行います。

- 季節の行事(お楽しみ会など)や夏期キャンプ等を企画
- 公民館等の学習室における学習支援や催し物の企画・参加



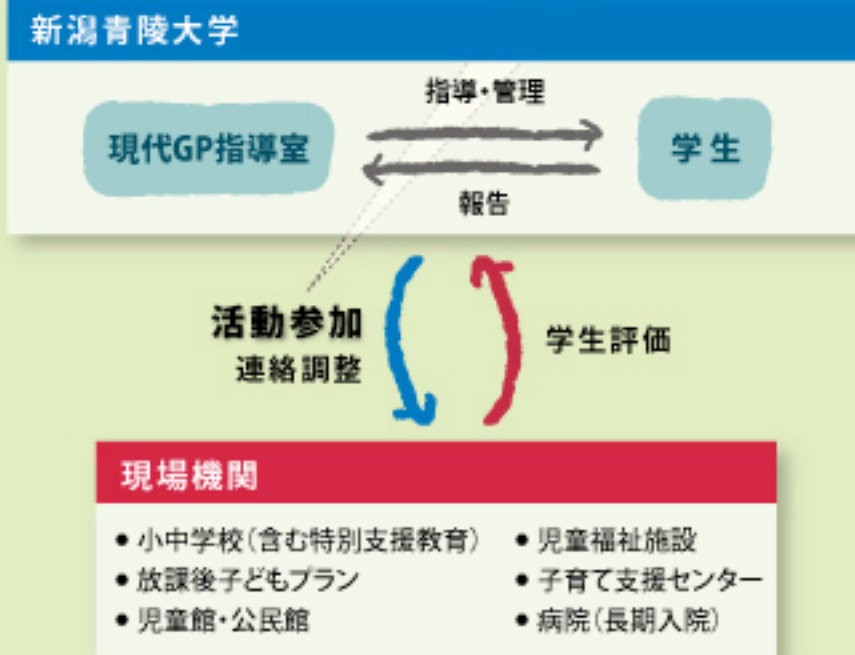
小学校お楽しみ会
(子どもたちとPTAを大学に招待)



学内研修(ハネルシアター)

- 子どもたちの話し相手や遊びなどをとおした一人一人の心理的支援
- 長期入院児童のベッドサイドでの読み聞かせや話し相手

【運営の仕組み】



メンタルフレンド学生の派遣申込について

本学では県内小中学校や関係機関等からのメンタルフレンド派遣要請を随時受け付けています。

派遣についての費用負担は原則として無料です。

お気軽にご連絡ください。

※ 学生の活動は学校や公的機関等に限られ、原則的にご家庭への直接派遣は行っていません。